株式会社テオリ

ポイント

◆BCP を従業員が一目で分かるよう 1 枚にまとめパネル化

◆被災の経験が薄れないよう、被災の爪痕を残している（可視化）

所在：岡山県倉敷市真備町服部 1807 番地

業種：製造業（家具・装備品製造業）

従業員数：26 名（令和 4 年 12 月時点）※パート・アルバイト含む

企業の概要について

倉敷・真備町の地域資源である「竹」を用いて、
「竹循環型社会を創る」という SDG s につながる目標を掲げている

◆竹集成材を用いた家具インテリア雑貨の製造販売

◆木材及び竹集成材を用いた製品の製造

✪2003 年「ISO9001」取得

✪2006･2007 年「グッドデザイン賞」受賞

洞爺湖サミットで脚光を浴びた竹製の椅子「テンション」
座面がしなる。竹のしなりを活かしたダイニングチェア

なぜ事業継続力強化計画作りに取り組んだのか

2018 年 7 月、2 ヶ月後に福岡市にオープン予定のホテルの家具製作を全面的に請け負っており、あと 1 ヶ月後に納品するはずの商品が西日本豪雨により完全に水没。被災状況を考えると、直ぐに商品の製造再開を行うことも難しく、納期には到底間に合わないので、ホテルの社長に「他の業者で手配をお願いできないか」と事情を伝えると、「ホテルのオープンは遅らせます、4 か月でも 5 か月でも待つから、とにかく一週間後に行くから！」と返事をいただき「ホテルの社長が来られるまでに今後の計画を作ろう」と考えたことが BCP 策定に繋がるきっかけ。「竹家具のパイオニアとして存続するぞ」と、社員が一丸となり、復興へ歩みを始めた。

認定ロゴマークを事務所に掲示

その後、被災した町の事業者として自社が率先して BCP を作るべきだと考え、事業継続力強化計画のセミナーを受講し、策定に至った。

被災状況

工場近くの川が氾濫し、本社工場が 2.2m 浸水被害。工場 1 階の機械や事務機器は完全に水没し、水圧でシャッターやドアも破損した。別棟のショールームも工場より低い立地にあるため 3.7m浸水した。工場前に止めていたはずの輸送用の大型トラックも 100m先の田んぼに浮かび、唖然とする状況。
幸いなことに、ＰＣサーバーは 2 階に置いていたのでデータは助かった。もしデータを失っていれば、会社の再建は諦めていた可能性があった状況。数キロ離れたところにある集成材工場も被害はなかった。

人の絆

従業員の家族だけでなく、友人、取引先の担当者等たくさんの人がかけつけてくれ、瓦礫を片づけたり、機械や刃物を洗ってくれた。本当にありがたかった。

取組の紹介

事前対策

◆ヒト

◎避難訓練の実施

→BCP で定められている担当の役割を果たすために、訓練を年に 1 度実施

◎ＴＥＯＲＩオリジナル　ＢＣＰパネルの掲示

→非常時に、右往左往せずに冷静に動けることを目的に、必要なことを、分かりやすく社員に伝えるため掲示するだけでなく、配布も行っている

BCP パネルを掲示

◆モノ

◆過去の浸水の高さをラインで表示

◆自家発電設備の導入

◆排水ポンプの取付け

◆止水版の設置

◆カネ（資金繰り）

被災前に南海トラフ地震を懸念し、火災保険から総合保険へ契約を切り替えていたため、被害額の４割を保険金でまかなうことができた。残り 6 割のうち 2/3 もグループ補助金*で賄えた。保険金は用途に制限がなく、使い勝手もよい。適切な保険に加入し、備えをすることは非常に重要であると強く感じた。

*グループ補助金とは、平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）により被災した中小企業者等の施設・設備等を復旧するため、県の認定を受けた場合に、そのグループに参加する事業者が施設・設備の復旧費用の一部を支援する補助金

取締役会長からのメッセージ

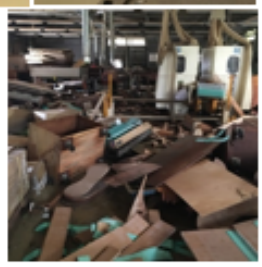
取締役会長の中山さん

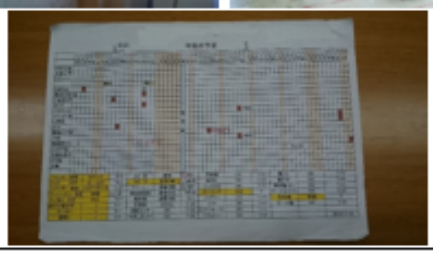
倉敷・真備町の特産の竹を生かした「竹家具のパイオニアとして存続し続けるんだ」という使命を掲げ、従業員にも意思を引き継ぎながら、困難な局面も乗り越えてきました。
被災から時間が経過するにつれ、人々の記憶や関心が薄れ、振り返る機会が減っています。「私の体験がお役に立つのであれば」という思いで、岡山県内を中心に講演を行い後世に語り継いでいます。自社の BCP についてもお話しさせていただいておりますので、その中で参加をされた企業が BCP を策定していく中で自社の強みに気づき、軸を明確化させ、完成させて終わるのではなく、見直しを定期的に行い育てていってほしいと考えています。

BCP パネル

2018年7月7日（土）西日本豪雨災害に備えるＢＣＰ　ＴＥＯＲＩ　'2021年8月3日

●浸水：4600棟　　面積：真備町1/3
●直接死：51名
●テオリ本社：浸水2.2m（午前6時37分）
・SR：浸水3.7m





1. 基本方針の設定　　BCP＝Business Continuity Pl

●何のためにBCPを作るのか？
①社員の雇用・安心・安全を守る。
②得意先の信頼性を維持する。
③企業としての使命を守る。
④竹家具のパイオニアとして存続する

2. 適用範囲の決定

●リスク設定、ボトルネック資源を守る
①第二工場（集成材工場）竹集成材を守る
②自社商品・物件の納期変更と今後の対応。
③協力工場への生産応援の依頼

3. 復旧目標の設定

●目標　復旧時間・復旧レベル
①72時間…第二工場で受注残手掛ける。
②7日…協力工場へ依頼する。→5日
③40日…機械が一部可動60%→30日
④60日…機械80%復旧生産始まる。→50日
⑤180日…オーダー機械を含む全て復活。

人

1. 社員の安否を確認
・社員の連絡先リストを作る（総務）
・担当：工場長

2. 社員に今後の経営方針を伝える
・給料の保証（通常通り）
・勤務時間　9：00～16：00
（被災者、応援者は自宅優先）
（各自の体調に合せて作業する）

3. 得意先への納期連絡
・得意先連絡リストを作り共有する
・営業：各担当者が連絡する

4. 役割分担を決める
A.ガレキを選別して捨てる
B.機械を洗う・乾燥させる
C.刃物を洗う・サビ止め塗る
D.機械屋さん…機械の診察
●計画表の作成…社長
●計画表・機械の状況は常に更新する

5. 協力工場へ生産依頼
・購買担当者が手配する
・資材の支給で持ち込みする。

6. 避難
・FM倉敷…緊急告知ラジオを購入
・レベル3で準備・竹集成材・車を移動
・レベル4で避難する（駐車場）

物

1. 発電機でパソコンを立ち上げる
・発電機購入する（ホンダEU26IN1JN）

2. 簡易トイレを手配する
・工務店

3. 受電機の復旧を最優先す
・電機工事店

4. 機械の買い替え・修理
・発電機200Vで検査する
・機械の見積りを見て判断する
・買い替え…中古・新品手配する
・修理…どこを変えていつ治る
・常に最新情報で判断する…社長

5. 建物の修繕
・工務店
・計画書を作って依頼する

6. 工場の床塗り替え
・新装オープンを迎える
・社員で塗る

7. 協力工場への生産依頼
・購買担当者が手配する
・資材の支給で持ち込みする。
・品質・納期の仕様を決める
・工芸会社

8. パソコンデーターはクラウドで保管する。サーバーは2階に設置
・管理者…開発部

9. 災害情報
・FM倉敷…緊急告知ラジオを購入
・レベル3で準備・竹集成材・車を移動
・レベル4で避難する

10. 避難場所
・テオリ駐車場&近隣の寺

金

1. 運転資金の借り入れ
・給料は通常通りの勤務時間で支給
・被災を受けていない金融機関で借り入れ
・当座貸越し枠：○○契約とする

2. 建物・機械・製品・材料…総合保険に入る

3. 発電機の購入

4. 補助金の申請する

5. 災害特別無金利3年据え置き借り入れをする。

6. 西日本豪雨災害被災額
・機械…000000円
・材料・仕掛り品…000000円
・建物・車両…000000円

7. 金融機関